

傑作アニメ

アニメーションは現実を抽象化させたりデフォルメすることで、実写以上にリアルに現実社会を描きだす。日本が世界に誇るアニメ作品を筆頭に、世界の傑作アニメを見直してみてもどうだろう。寒い冬はコタツに入ってアニメ三昧！

田中千世子 映画評論家

子どもたちは考える

宮崎駿監督の『もののけ姫』が1997年に公開された時、この映画は文明と自然の関係を扱っていて難しいから子どもはあまり来ないだろうと誰もが予想し、私もそう思った。ところが一番熱心な観客は子どもたちだった。

そうか、子どもたちはまじめなんだと、自分の子ども時代を思い出した。実際、私の正義感が一番強かったのは小学校2、3年の頃だ。誰かに教わったというより、自分で正義の論理をつくって、いじめ成敗のような言動をとっていた。わんぱくな男子が弱い子をいじめたりする。「もしいじめられるのが自分だったらどうする？」とつめ寄る。アリの殺している子にも「自分がアリだったら？」と言う。言われた方はよけいむきになったから私の正義の論理はまるで効力を発揮せず、その内に私も諦めた。私の論法には正義のファシズムみたいなところがあつたのだろう。

子どものまじめさを大人の価値観に向けて扇動するのではなく、子ども自身に考えさせることが大切だ。

地球と環境と人間

大きな戦争が何度も起きて、地球が荒廃した時代に、汚染を免れた国が風の谷にあった。ロマンティシズムあふれる名作『風の谷のナウシカ』は、メーヴェに乗って飛ぶナウシカのさっそうとした姿が印象的だ。皆が恐れて近づかない

腐海にもナウシカは関心を持ち、王蟲とも交流する。毒を放出する腐海は、実は地球の自家浄化活動のためにあつたことがわかる。

このアニメを今、私たちはどのように受けとめるべきか。ナウシカが自分の命までかけて他を救い、共同体を救おうとする意志の強さについて。彼女が伝説を実現する選ばれた英雄であることについて。そしてまた、地球自身が人間の滅びの上に腐海をつくり、それによって生命が住むのに適した環境づくりを促進しているというアイロニーについて。と、理詰めで考えるのも観賞のひとつである。



風の谷のナウシカ 監督 宮崎駿
声の出演 島本須美/納谷吾朗/松田洋治
1984年/日本/116分
DVD 4,935円(税込)
発売 フェナビスタホームエンターテイメント
ト(C)1984二馬力・GH

『風の谷のナウシカ』に較べると日本のあちこちに田園が広がっていた昭和の時代を背景にした『となりのトトロ』はのんびりしている。大きくて変な生き物トトロを通して草や木や土が好きになる。それでいいのだろう。



となりのトトロ 監督 宮崎駿
声の出演 日高のり子/坂本千夏/糸井重里
1988年/日本/88分
DVD 4,935円(税込)
発売 フェナビスタホームエンターテイメント
ト(C)1988二馬力・GH

宮崎駿監督や高畑勲監督が感動したというカナダのフレデリック・バック監督の『木を植えた男』は、フランスのプロヴァンス地方の荒地にたったひとりで木を植え続ける男の話である。

ジャン・ジオノの短編小説をもとにしたこの芸術アニメは、自然を大事にと声高に呼びかけたりしないが、心に訴えてくるものがある。



木を植えた男 監督 フレデリック・バック
声の出演 三国連太郎
1987年/カナダ/30分
DVD 12,600円(税込)
発売 ジェネオン エンターテインメント

反核・反戦・平和

戦争の悲惨さや原子爆弾のむごさを描いた映画やアニメーションはいくつもあるが、悲惨さばかりを強調して、子どもに拒否反応を起こさせることもある。野坂昭如の原作をアニメ化した『**火垂るの墓**』は、少年と幼い妹が生きようとする姿を描き、哀れを誘う。14歳の少年清太と4歳の節子は母を失い、親戚の家に身を寄せるが、邪魔者扱いされることを嫌ってその家を出て横穴で暮らすのだった。

「物語の悲惨さにもかかわらず、清太にはいささかもみじめたらしさがない。すつと背をのびし、少年ひとり大地に立つさわやかささえ感じられる。14歳の男の子が、女のように母のようにたくましく、生きることの根本である、食べる食べさせるということに全力をそそぐ」と、1988年の公開時のパンフレット



火垂るの墓 監督 高畑勲
声の出演 辰巳努/白石綾乃
1988年/日本/88分
DVD 3,129円(税込)
発売 ワーナー・ホーム・ビデオ

に高畑監督は書いている。たとえ死が待っていないようにも、誇らしく生きる姿勢は大人より子どもたちの素直な共感をよぶのではないだろうか。アンネ・フランクの日記をアニメーション化した『**アンネの日記** The Diary of Anne Frank』は、阿姆斯特ダムの街と運河、そして当時の時代背景を丁寧に描いてあるのがよい。

アンネの運命に同情するだけでなく、アンネたちユダヤ人を迫害し、強制収容所で死なせたナチス・ドイツのことや、そのドイツと日本が同盟を結んだこと、共にファシズム国家であったことなどを子どもたちがきちんと学習することが大事だ。



アンネの日記 The Diary of Anne Frank
監督 永丘昭典
声の出演 高橋玲奈/草薙剛/黒柳徹子
1995年/日本/103分
DVD 4,935円(税込)
発売 コロムビアミュージックエンタテインメント

日本版の声(森繁久弥と加藤治子)の演出を大島渚監督が担当した『**風が吹くとき**』は、核の恐怖がじわじわと伝わるイギリスの作品だ。レイモンド・ブリッ

クスの絵本のアニメ化で、数時間後に核の落ちることを知った老夫婦の生活が淡いタッチの絵で描かれる。

共同体

日本の子どもは共同体について学ぶ時、親や兄弟、そして家族から始めるのだろうか。幼い頃は誰もが自己チューウである。それを鍛えてたくましい個人主義に発展させるのか、協調の精神を教え、和の文化に向かわせるのか。

4歳児を持つ教育熱心な知り合いの女性に聞いたところ、彼女は子どもが1、2歳頃から絵本シリーズをもとに世の中のことを教えたそうだ。また、幼稚園では幼い自己チューウ集団に友だちと仲良くすること、集団と個人の約束について教育するという。

イタリアの友人の娘が小学校に通いだした頃、教科書を見せてもらったことがある。まず、教科書の絵は自分から始まる。私、私、私である。そして友人、それから社会へ関係が広がる。個人主義の基本を見た思いがした。宮崎アニメが世界に通用するのは、西洋的なまっすぐな個人主義に貫かれているからだと思う。対照的に宮崎の先輩にあたる高畑勲は、集団により重きを置く。

高畑監督の初期の傑作『**太陽の王子ホルスの大冒険**』は、反体制時代の1968年の作品である。アイヌ伝説と北歐神話を元に悪魔に対して村の人々が団結して戦う。その先頭に立つのは勇敢な若者ホルス。勤労と組織と闘争の讃



太陽の王子 ホルスの大冒険 監督 高畑勲
声の出演 平幹二朗/市原悦子
1968年/日本/82分
DVD 4,725円(税込)
発売 東映ビデオ

歌が、アニメーションに対する見方を大きく変えた画期的な作品である。

一方、同じ高畑監督の『**平成狸合戦ぽんぽこ**』は、題名からもわかるようにホルスから四半世紀後につくられた。郊外の森林がどんどん宅地化されて、狸たちの住む場所がなくなる。知恵を絞って人間に対抗するのだが、結局は敗れる。滅び行く集団の悲哀がユーモラス



平成狸合戦ぽんぽこ 監督 高畑勲
声の出演 古今亭志ん朝/野々村真
1994年/日本/119分
DVD 4,935円(税込)
発売 ブエナビスタホームエンターテイメント
(C) 1994 畑事務所・GNH